

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

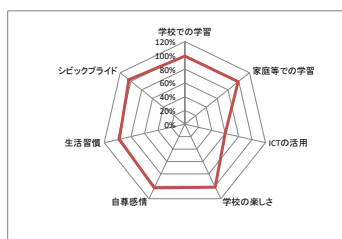
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈したり、文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えたりする問題は強いものの、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	本文中に示されている一つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する。	下回っている
	努力が必要な問題	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する。	
数学	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて式を变形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題は強いものの、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈したりする問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。	下回っている
	努力が必要な問題	1粒の灯油を燃やすまでの「強」の値と、「弱」の場合のストロークの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに対して87.4%の生徒が肯定的に回答している。 ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに課題があるため、日々の授業の中で自分の考えを書いたり、「まとめ」や「振り返り」を通して自分の考えを表出したりする時間を確保する。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が高かったが、

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

国語と数学のどちらにおいても自分の考えを説明することに課題があるため、日々の授業の中で自分の考えを書いたり、「まとめ」や「振り返り」を通して自分の考えを表出したりする時間を確保する。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

ICTの活用時間に課題があるため、各授業において少しでもICTを活用し、個別最適な学習を展開する。